

第4回建設産業活性化会議 議事概要

日時：平成26年3月28日（金）14：15～15：15

場所：国土交通省3号館4階特別会議室

（座長・高木副大臣 冒頭発言）

- 1月30日の第2回会議におきまして、公共工事の元請企業・1次下請企業を社会保険等加入企業に限定する方向性をお示したところでありますが、本年8月1日以降、国土交通省直轄工事では、元請企業及び下請代金の総額が3,000万円以上の工事における1次下請企業につきましては、社会保険等加入企業に限定することと致します。今後、関係者に詳細を周知するとともに、他の発注者にも同様の対応を呼びかけてまいります。
- また、2次以下の下請企業についても、社会保険等に未加入である場合は、建設業担当部局による加入指導等を実施していくことと致しました。
- なお、社会保険等への加入徹底を一層加速化させるため、平成27年度以降につきましては、競争参加有資格者名簿に登録できる企業を社会保険等加入企業に限定する方向で検討を進めてまいります。
- ・（一社）群馬県建設業協会 青柳会長より、**資料1**「（一社）群馬県建設業協会提出資料」の説明があった。
- ・（職）広島建設アカデミー 福井代表より、**資料2**「（職）広島建設アカデミー提出資料」の説明があった。
- ・ 関西鉄筋工業協同組合 岩田理事長より、**資料3**「関西鉄筋工業協同組合提出資料」の説明があった。
- ・ 構成員から、以下のような発言があった。
- 各県・各地域で職人学校や研修センターが運営されるよう、助成金などがあるといい。
- 例えば、3級技能制度を活用するなど、業界と教育界がタイアップできることはある。

- 一般の学校での出前講座はスペースや天候に左右されるといった制限がある。人がいなくなる中で、いくつかの職種で一緒に学び多能工を育てるという発想はありうる。そのためにも職人学校を創って、様々な職種が一同に会して、そこに生徒が学びに来るといような形で多能工を育てるということは可能だと思う。
- 広島アカデミーの前進の広島建設共同職業訓練協会は、多能工を育てていくというものだったが、職人の世界では単能工の方が効率がいいのは事実であり、どうしても単能工化する面があった。
- いくつかの職種で合同で職業訓練を行うことは、その地域でほんの少し汗をかいてくれる会社があればできるシステムだと思う。専門工事業は地場産業だから、役所に音頭を取って頂くなどして、こういった取り組みが各地域でもっと増えれば、職人を確保しやすくなるのではないか。
- 現場でスキルがアップすれば収入があがるシステムになっているかと言えば、個々の企業次第。当社は歩合制の基準値を決めて、その基準値を超えるような成果・生産性の向上があった場合は、賞与として還元している。ただ、経営状況に左右されて、歩合が上がっているのに払ってあげられないという状況に陥らないように取り組まなければならない。
- 登録基幹技能者が普及すれば、技能に応じて評価がなされるようになるだろう。
- 建設業界は表に出ているよりはるかに多くの企業が日給月給のままで、単価が厳しくても「これだけしか払えないよ」という世界であり、まずそこから改善する必要がある。未だに社会保険料を払う・払わないという議論をしている業界であるという現実を反省し、雇用形態の部分からまずは変えていかなければならない。
- イメージ戦略も大事。例えば、女性が男性に「あんなカッコいい職人になってよ。」と言われるようなイメージを処遇改善と合わせて一般社会に浸透させることも方策の一つとして考えられる。

以 上